

“京田辺の未来”について考えよう！

高校生・大学生ワークショップ

～第4次京田辺市総合計画策定のための高校生・大学生ワークショップ 結果概要～

令和元年8月9日（金）9：00より、京田辺市役所 305会議室において、「第4次京田辺市総合計画策定のための高校生・大学生ワークショップ」を開催しました。

11名の高校生・大学生が2班に分かれ、『住み続けたい！一度外に出てもまた戻ってきたい！と思える京田辺市とは？』というテーマで話し合いを行いました。

【市長のまちづくりに対する思い（要旨）】

- 現在、第4次京田辺市総合計画の策定を進めている。基本構想は先日答申され、これからまちづくりプランを作成していくところである。
- 本日参加された皆さんには、縁があって京田辺の高校・大学に通っており、10年後、どんなまちになっていたら良いか、住んで良かったと思えるまち、質の高いまちとはどんなまちか、について考えて頂きたい。
- 京田辺は関西学術研究都市の一翼を担っており、同志社大学との連携を通して環境に関する最先端のテクノロジーを活用したまちづくりができると思う。また、緑も多いことから、これらをうまく活用して、地域経済が良くなるしくみをつくっていきたいと考えている。
- 私のマニフェストでは、3つの柱を掲げ、その柱を基に5つの分野で30の施策を示しており、その施策を総合計画の中に盛り込んでいきたい。
- 今回のワークショップでは10年後の世界を考えてもらうが、自動運転やドローンの発展なども想像して、柔軟な発想で意見を出して頂きたい。



【グループ発表（要旨）】

■ 1班

- 交通の利便性がある、自然が多いなど、いろいろ良いところがあるが、これらの良いところが現状で活かされていない気がする。
- 京都、奈良、大阪へは行きやすいが、市内的一部の地域では交通が不便な状況になっている。
- 外国人と交流する機会もあまりなく、学生が勉強したり、服を購入する場所も少ない。居酒屋はあるが、若者が集まる場がないと感じている。
- これらのこと踏まえて、京田辺で特に重要なのは、SNS等を活用してPRを行うことだと考えた。
- 今では、ツイッターやインスタグラム等が流行っているが、10年後には技術革新が進み、VR等も活用できると思う。
- 多言語で情報を発信することで、外国人にもアピールし、京田辺の文化に触れてもらえたなら良いと思う。



■ 2班

- 大きく2つの視点で課題をまとめており、1つは交通面。街灯が少ない、道が狭い、駐輪場が少ない、市外へは行きやすいが市内の移動が不便、などの意見が出された。
- ただし、交通面に関しては5年後、10年後にどのようなモビリティができるかわからぬ部分もあるため、改善策は保留とした。
- もう1つは、全体的な課題を整理した。タピオカやおいしいお茶を飲めるところ、いわゆる“映える場所”が高校の通学路にない。
- 商店街も賑わっておらず、若者が遊ぶ場所が少ない。大学生も自宅と学校を往復するだけになっている。
- そこで、まちづくりをうまく行うことで、世代間交流につなげられないかと考えた。
- 例えば、商店街の空き店舗を有効利用し、若者のたまり場や、自習室、子ども館、高齢者との交流の場をつくる。
- 若者にフォーカスを当てるのであれば、自然を活かしたアスレチックやサバイバルゲームなども考えられる。子どもにとっては大きな公園があると良いと思う。
- 23歳になると他のまちに出て行ってしまうということだが、住みやすいベッドタウンとすることで、職場が大阪や京都にあっても、京田辺に住んでもらえるのではないかと思う。



青字：良いところ
赤字：改善が必要なところ
★：重要な意見

1班

安全で心安らぐ優しいまち <安全・安心>

交通

- ・街灯が少ない。
- ・夜、細い道が危険。
- ・自転車などのマナーが悪い。交通指導が必要。

緑に包まれた美しいまち <緑>

- ・家が多く建って、畠や山などの自然が取り壊されてきている

自然

- ・公園がたくさんある。
- ・自然が多い。
- ・便利だけど、自然もある

穴場スポット

- ・堤防からの夜景がきれい

ここは PR しない

その他

- ・雇用環境が不足している。
- ・あまりお年寄りの方と子どもの関わりがないようにみられるため、児童館にお年寄りの方を呼び、関わりをつくる



映えの不足

子育てしやすく未来を育む文化薫るまち <文化・教育>

教育

- ・オルタナティブな学校が複数ある。
BUT
- ・外国人との交流の場が不足している。

歴史・文化

- ・一休寺や甘南備園がある。
- ・有名な一休寺がある。
- ・“玉露のまち”で有名。もっと京田辺を宣伝するために玉露の店、イベントを開催する
BUT
- ・特産品、名産品などに対しインパクトが足りない。

学習スペースの不足

- ・高校・大学が不足しているので、学生が市外に流出してしまう。
- ・学生が友達と自由に自習できるスペースがないので、自習スペースをつくる。

娯楽施設の不足

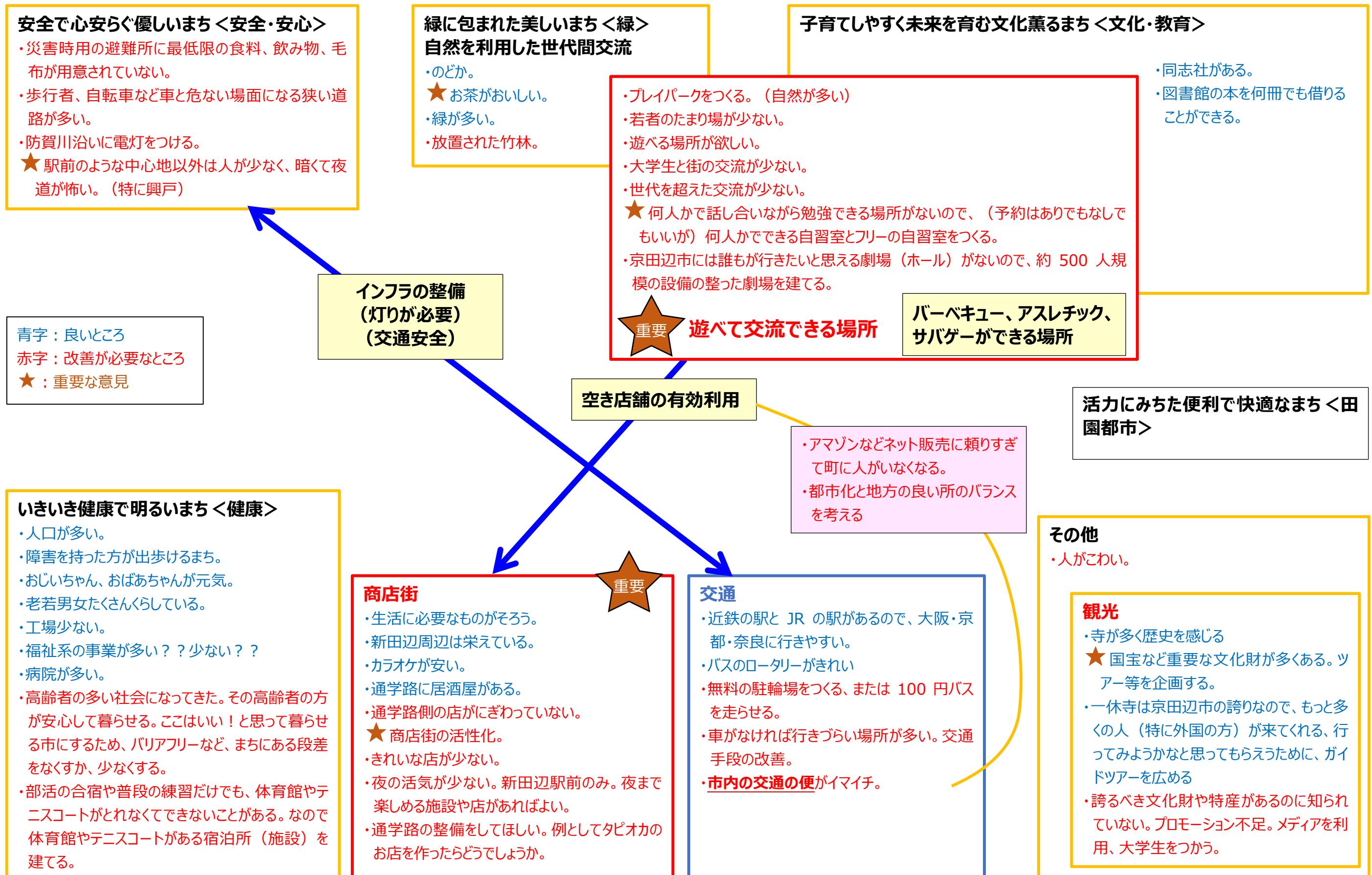
- ・若者が楽しめるような娯楽施設が少ない。
- ・若者が楽しめる場所がないので、服屋さんをつくる。
- ・商店街の衰退が見られるため、活気のある商店街を目指す。
- ・気楽に立ち寄れる場所が少ない
- ・駅前は居酒屋がたくさんあり、カフェなど落ち着ける場所がないので、若者からお年寄りの方までが楽しめるカフェをつくる

交通の利便性

- ・大阪や京都市に近いので住みやすい。
- ・大阪や京都にも行きやすい。
- ・JR と近鉄の駅が近くの距離にあるため乗り換えが楽である。
- ・新田辺駅、京田辺駅周辺ではスーパー、飲食店、病院などが近く、降りてすぐ行ける距離にある。
- ・高速道路や鉄道などの交通網が整備されている。

交通手段の不足

- ・一部の地域では交通が不便である。
- ・城陽市にはあるが、京田辺市にコミュニティバスがない
- ・京田辺市の南西部の方では電車などの交通機関がない



【市長との意見交換（要旨）】

市 長：京田辺のまちは緑が多いと思うか。また、その緑をどうしていったら良いと思うか。

参加者：緑を活用してほしいと思う。

市 長：まちづくりにあたっては開発と保全があり、税収を増やすためには開発が必要となる。

一方、憩いの場として保全も必要である。緑を守るだけでなく活用してほしい、というプラス思考を持っていることは良いことだと思う。

意見の中に“映えの不足”とあるが、これは、その場所を人工的に作るのか、穴場を探すのか。

参加者：大学生にとっては、京田辺のすべてが穴場だと思っている。

市 長：今回意見が出された「木津川の堤防からみた夜景」は、私としては意識していなかった。

みんなが“映える”思っているところを探すのも良い。

10 年先に社会がどう変化しているのかわからないが、ドローン等を使って人が空を飛んでいたり、交通の在り方が根本的に変わっているかもしれない。また、店員と顔を合わせた商品のやり取りがなくなっているかもしれない。

そのような中で、高齢者と高齢者、若者と高齢者、外国人も含めて、どのようにコミュニケーションをとっていくのかが重要になるのでは、と考えている。



【とりまとめ（要旨）】

- これからまちづくりの主人公は君たちであり、5年先には進学しているか、働いているか、何かしていると思うが、その時に、まちの主人公として関わってほしいと思う。
- まちづくりに関わるにあたって3つのキーワードがある。1つは、そのまちのことを知ること。今回、ワークショップの前に宿題が出されたので、京田辺のことも調べてもらったと思うが、まずは知ってもらう。
- 2つ目は、まちのことを考えてもらいたい。良いところ、改善するところ、どうしたらまちが良くなるか、いろいろ考えてもらいたい。
- 3つ目は、これが非常に大事で、未来のことも考えてもらいたい。今回のワークショップの結果がまちづくりプランに盛り込まれたら、未来に関わったことになる。
- 今回、“映え”など、参考になるアイデア、キーワードがたくさんあったと思う。貴重な意見を頂けたので感謝したい。
- 今後、とりまとめの段階で、また意見を聞くかもしれないでの、その時は協力を願いしたい。

